

飛翔する監督 from SKIPシティ国際Dシネマ映画祭

監督名/映画祭ノミネート・受賞作品名	活躍の概要
<small>くまかいずる</small> 熊坂出監督 第2回映画祭(2005) 短編部門・最優秀作品賞 『珈琲とミルク』	『パーク アンド ラブホテル』が第58回ベルリン国際映画祭(2008年)最優秀新人作品賞を受賞。 『リルウの冒険』が第6回シネマデジタルソウル(2012年)にて、レッドカメレオン賞(グランプリ)、ブルーカメレオン賞(国際批評家賞)をダブル受賞。日本人初の快挙を成し遂げた。
ジャ・ジャンクー監督 第2回映画祭(2005) 長編部門・ノミネート 『世界』	『長江哀歌』がベネチア国際映画祭(2006年)金獅子賞受賞。『無用』がベネチア国際映画祭(2007年)最優秀ドキュメンタリー賞受賞。 『帰れない二人』(ビターズ・エンド 配給)が第70回カンヌ国際映画祭コンペティション部門正式出品。2019年9月公開。
スサンネ・ピア監督 第2回映画祭(2005) 長編部門・最優秀作品賞 『ブラザーズ』	『未来を生きる君たちへ』が第83回アカデミー賞(2012年)最優秀外国語映画賞、第68回ゴールデングローブ賞(2011年)最優秀外国語映画賞を受賞。
<small>いしかわけい</small> 石川慶監督 第6回映画祭(2009) 短編部門・ノミネート 『It's All in the Fingers』	長編映画デビュー作品『愚行録』が、第73回ヴェネツィア国際映画祭(2016年)オリゾンティ・コンペティション部門に選出。2017年度新藤兼人賞銀賞受賞。 『蜜蜂と遠雷』(東宝配給)が2019年10月公開。第43回 日本アカデミー賞(2020年)優秀作品賞など7部門、第74回毎日映画コンクール日本映画大賞、第43回山路ふみ子映画賞作品賞、第44回報知映画賞作品賞など多数受賞。
<small>しらいしかずや</small> 白石和彌監督 第6回映画祭(2009) 長編部門・SKIPシティアワード 『ロストパラダイス・イン・トーキョー』	『凶悪』が第37回日本アカデミー賞(2014年)優秀作品賞、優秀監督賞、優秀脚本賞、優秀助演男優賞受賞。 2017年、『彼女がその名を知らない鳥たち』でブルーリボン賞監督賞に輝くと、2018年にも『孤狼の血』などで同賞を受賞し、史上3人目の快挙を達成した。 『孤狼の血』が第42回日本アカデミー賞(2019年)優秀賞12部門、うち最優秀賞4部門を受賞。 『麻雀放浪記2020』(東映配給)が2019年4月、『凧待ち』(キノフィルムズ配給)が同年6月、『ひとよ』(日活配給)が同年11月公開。
デクスター・フレッチャー監督 第9回映画祭(2012) 長編部門・ノミネート 『ワイルド・ビル』	2018年、途中降板した監督の後を受け製作した『ボヘミアン・ラブソディ』が世界中で大ヒット。第91回アカデミー賞(2019年)で作品賞を含む5部門にノミネートされ、主演男優賞、編集賞、録音賞、音響編集賞の最多4冠を獲得。第42回日本アカデミー賞(2019年)最優秀外国作品賞を獲得するなど、国内外の映画賞を数々受賞。 2019年5月『ロケットマン』(東和ピクチャーズ配給)が米英で公開、日本では同年8月公開。第77回ゴールデングローブ賞 ミュージカル・コメディ部門で主演男優賞、主題歌賞を受賞。
<small>なかのりょうた</small> 中野量太監督 第9回映画祭(2012) 長編部門・監督賞、SKIPシティアワード 『チチを撮りに』	『湯を沸かすほどの熱い愛』が、第90回米アカデミー賞(2018年)外国語映画賞日本代表選出。第40回日本アカデミー賞(2017年)にて6部門で優秀作品賞にノミネートされるなど、国内の映画賞を数々受賞。 『長いお別れ』(テレビ東京開局55周年記念作品/アスミック・エース配給)が2019年5月公開。第11回TAMA映画賞で最優秀作品賞、最優秀男優賞、最優秀女優賞の3部門受賞。『浅田家!』(東宝配給)が2020年10月公開予定。
<small>まかべゆきのり</small> 真壁幸紀監督 第11回映画祭(2014) 短編部門・ノミネート 『時のカケラ』	長編デビュー作『ボクは坊さん。』が第49回ヒューストン国際映画祭のプラチナアワード(長編映画部門最高賞)とシカゴ・アジア・ポップアップ・シネマのオーディエンス・チョイス・アワードを受賞。 2015年10月公開(フィルムファントム配給)。
<small>みさとともき</small> 見里朝希監督 第13回映画祭(2016) アニメーション部門奨励賞受賞 『あたしだけをみて』	パペット・アニメ『マイリトルゴート』が第24回学生CGコンテスト(2018年)のアート部門・エンタテインメント部門の最終週賞のダブル受賞や、イタリアの「ASFF: As Film Festival 2018」の短編アニメーション部門最優秀賞などを受賞し、大きな話題となる。 2019年4月公開。
<small>うえだしんいちろう</small> 上田慎一郎監督 第13回映画祭(2016) 短編部門・奨励賞 『テイク8』	『カメラを止めるな!』が、予算300万円のインディーズ映画ながらSNSのロコミ効果で全国公開へと拡大し、国内及び海外の映画賞を数々受賞。2018年の邦画興行収入ランキング7位(31.2億円)というヒット作品となった。第42回日本アカデミー賞最優秀編集賞、話題賞等9部門など多数の映画賞を受賞。 2019年の本映画祭オープニング作品『イソップの思うツボ』(アスミック・エース配給)を浅沼直也監督、中泉裕矢監督と共に監督し、同年8月公開。『スペシャルアクターズ』(松竹配給)が同年10月公開。同年、映像関係者としては38年ぶりとなる滋賀県文化奨励賞を受賞。
<small>そのだしん</small> 園田新監督 第14回映画祭(2017) 短編部門・ノミネート 『DEPARTURE』	2017年、新作長編映画『リバーサイドダイアリー』を製作。国内外20を超える映画祭に招待され、最優秀作品賞を含む11の賞を獲得。 2018年5月公開(CiNEAST配給)。